令和元年度 自己点検・自己評価表

弘前学院大学

1 理念・目的

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・	は専攻ごとに設定する人材育成その他 の教育研究上の目的の設定とその内容 〇大学の理念目的と学部・研究科の目的		文学部 〇適切に設定している。	〇コロナウイルスのような世界的危機に際しては、諸学を糾合する文学部の理念が有効であるが、現状ではそれが適切に設定されているとは言えない。(2020年3月末段階)
<i>-</i> 977.°			社会福祉学部 〇社会福祉学部の人材養成の目的その他の教育研 究上の目的を学則に定めている。	○学生へのアンケート等を行い、学生の修 学に関するニーズを把握するとともに時 代の変化と要請に応えたい。
		s 🔇 в с	看護学部 ○大学の理念と関連させたアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーについて、文部科学省の学力の3要素との整合性を話し合った。 ○2022 年度実施の新カリキュラム改訂についての議論を開始する前に、新カリキュラム検討委員会にて実習の実態を調査し、実習の骨格である実習要綱を作成した。	リシー、カリキュラムポリシーと文部科学省の学力の 3 要素との整合性について、2020年度の課題に継続する。 ○2022年度のカリキュラムの改定に向け、新「看護教育の技術項目到達度」の作成
			文学研究科 ○文学研究科の目的については、すでに明文化していたが、一昨年度に見直しを行い、適切になるように改善を図った。今年度も見直しを行い、わかりにくい部分があり、研究科の目的が明瞭に伝えられるように表現を一部直した。 ○大学の理念目的と本研究科の目的の関連性については、きちんと明文化している。	覧』を見直す中で検証していきたい。

			社会福祉学研究科	が昨年度、新たに「弘前学院教育方針」 並びに「弘前学院大学教育理念」を定め、
的及び学部・研究 科等の目的を学則 又はこれに準ずる	は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示 〇教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、 学部・研究科の目的等の周知及び公表	(၁) B င	文学部 〇適切に明示している。 社会福祉学部 〇学生便覧に記載し、毎年度始めの学生へのオリエンテーションで教育目的等を知らしめている。 〇今年度も引き続き、新入生アンケート結果報告、新入生リトリートの実施による建学の精神の学び・学修支援の効果に関する調査分析報告、投票で加アンケート結果報告、FD 講演会報告書、授業するアンケート結果報告、FD 講演会報告書、授業するアンケート結果報告、FD 講演会報告書、授業するアンケート結果報告、FD 講演会報告書、投票であるである。 「会に関する間がある。 「会に公表している。 「会に公表している。 「会に公表している。 「会に公表している。 「会に公表している。また、新入生の保	の精神、教育理念、学部の教育目標を掲げて周知に努めるとともに、ウェブサイトの学部紹介欄を充実する。 ○看護学内の5つのチームにおいて、教育

護者に対しては、入学式後の集会にて、学部の理	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
念および教育内容および方法を周知している。	○大学における看護系教育のあり方につい
○看護学部の運営に関する考え方、活動方法 (PDCA	ては、継続して研修会のテーマとする。
サイクル) などについて検討してきた。 学部組織	
は、可視化できる組織図を作成し、運営する方向	
性を示すことができた。	
○看護学部の教員の人材育成については、FD 委員	
会を中心に、定期的に研修会・研究会を開催した。	
 文学研究科	
○文学研究科の目的の明示については、『大学院要	〇毎年見直しを行い、更新したものをホー
覧』、およびリーレットにあげるとともに、ホー	ムページに載せていきたい。公表の方法
ムページにおいても公表している。	については、今後も考えていきたい。
〇学生に対しては、学期初めのオリエンテーション	
において『大学院要覧』をもとに研究科の理念と	
目的を周知している。	
 社会福祉学研究科	
〇研究科においては本学の目的の下に学則で教育	
目標を定め、教職員及び学生には大学院要覧、ホ	
ームページ上に掲載し周知を図っている。	
 ※大学の理念・目的についての教職員や学生への周	※学生に対する大学の理念・目的の周知に
知及び社会の公表は、大学案内・募集要項・学生	
便覧、大学院要覧、ホームページ、リーフレット	
等で適切に行っている。これらは、新入生・在学	
生オリエンテーションにおいても周知徹底を図	
っている。	
※大学学則、大学院学則等において理念・目的は明	
示してある。	

的・各学部・研究科 における目的等を 実現していくた め、大学として将 来を見据えた中・ 長期の計画その他 の諸施策を設定し ているか。

(3) 大学の理念・目 〇将来を見据えた中・長期の計画その他 の諸施策を設定

文学部

〇中長期計画については、学内にこれのみを扱う独 | 〇コース制について、移行することは決ま | 自の委員会があり、すでに 2 期目の計画案策定 っているが、その内容は確定しているわ がなされた。大学として将来を見据えていると言しけではない。すでに提出されている学部 える。文学部については、近い将来のコース制移 長案と副学長案を統合進化する作業が、 行を見据えて、議論が加速しているところであ 学部長において始まったところである。

社会福祉学部

- ○社会福祉学部中期目標計画(2017~2019 年度)を|○2019年度(中期目標最終年)の目標達成に| 作成し、その目標達成に積極的に取り組みほぼ達 向けては、PDCAサイクルを念頭に置きな 成した。
- ○3 か年計画のうち 3 年目の目標達成状況の評価書 を作成し PDCA サイクルにより 2020 年度からの 目標値と実施計画の見直しと修正を行った。

がら取り組んだ。

看護学部

- 〇中長期計画1期および2期を作成した。
- ○2017年度より、看護教育モデル・コア・カリキュ 定規則の改定が予測されている。これら ラムの議論を行い、2019 年度 4 月より新カリキ の改定に向けた準備を 2020 年度から行 ュラムによる教育を実施している。
- ○将来を見据えた学部運営を行うため、2022 年度 ○2019 年度の重要課題は、「実習の全般的 の新カリキュラム改訂に向け、カリキュラム検討 な見直し」、「初年次教育の体系化」、であ 委員会にて、実習の実態調査と新しく実習要綱を る。 改訂した。
- ○2021 年度の入学生から、厚生労働省の指 う。

 - 〇中長期計画 2 期の計画に基づき、指定規 則の改定による新カリキュラムの策定を 行いたい。

文学研究科

- ○文学研究科の中・長期の計画については、研究科 ○中・長期の計画については、今後も継続 長を中心に将来設計を描いている。教員の配置な 的に研究科委員会において意見交換を行 ど要望し、研究指導教員を1名増員した。
- っていきたい。また、今後も大学と連携 しながら、改善していきたい。

社会福祉学研究科

〇研究科の点検・検証だけでなく学部との連携によ

	り、その適切性について総合的な検証を行ってい る。	
	※「第1期3年次中長期目標実施計画(2017年度~2019年度)」を策定しPDCAサイクルで年度毎の目標検証を行い、各学部・学科の教育質向上に取り組んでいる。今年度、第1期最後の年であったが、各学部・学科・研究科ほぼ目標を達成している。	(2020 年度~2022 年度)」を策定中である。

2 内部質保証

点検	・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
ための針及	内部質保証の の全学的な方 び手続き ているか。			文学部 〇全学的な組織として「教育推進会議」が 2019 年度に設定された。これにより、内部質保証に関する基本的な考え方、全学的な組織の権限と役割、役割分担等が明確になった。 社会福祉学部 〇「10 年後の弘前学院大学」を見据えた中長期目標実施計画において、内部質保証のための全学的な方針を示している。 〇方針に基づき、3 か年の短期目標とその達成に向けた各年度の学部目標を設定し、PDCA サイクルにより取り組んでいる。	教育の企画・設計・運用について、以前とは全く違うノウハウが必要となったが、その PDCA サイクルは、まだ十分に明らかになったとは言えない
				看護学部 ○学部教育の在り方については、新カリキュラムプロジェクトにて議論したことで、今後の方向性を明らかにし、共有することができた。 ○2017 年度より、学生委員会および国家試験対策委員会、FD 委員会、入試委員会が、PDCA サイクルに則って活動を実施できるようになった。しか	会活動を機能させるため、実態を把握 し、計画を立て評価し、次年度以降の活 動に成果をフィードバックする好循環 を作り出す。

			し、未だ PDCA サイクルで適切に活動を機能させ	画が報告されるようになってきたた
			ることができていない委員会活動もある。	め、活動の全体像が理解されやすくな
				った。
			※内部質保証に関する方針や組織については、昨年	※「教育推進会議」については、成果はま
			度検証され、今年度組織として学長を委員長に	だ出ていないが、教育の質の向上と教
			「教育推進会議」を立ち上げ、規定も策定し本格	育改善を推進するための要の組織機関
			的に稼働を始めている。	の一つである。次年度に成果が期待で
			ロゴーな単でを見なっている。	
(A) + + = = = = = = = = = = = = = = = = =	O + 4055/057 0 14/4/- + 17 + 7 > 0 24/4/4			きる。
	〇内部質保証の推進に責任を負う全学的な		文学部	
推進に責任を負う	1		〇内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織と	
	〇内部質保証の推進に責任を負う全学的な		して「教育推進会議」が 2019年度に設定され	
備しているか。	組織のメンバー構成		た。メンバ―は学長・学部長・学科長・事務長	
			を中心に構成されている。	
			社会福祉学部	
			○学部長、学科長、学務主任、学生主任を構成メンバ	〇学部長、学科長、学務主任、学生主任に FD
			一とする「自己点検・自己評価委員会」を組織し	委員長を加えた5者による体制とし、内部
		S	た。本委員会が内部質保証の推進に責任を負い、学	質保証に責任を負う学部内組織を強化す
		\triangle	部内体制を整えている。	٥.
		_	〇学部 FD 委員会の機能権限の充実化を図った。	
		В	〇十m・b 安良五の成形催成の元天にを囚 うた。	
		С	看護学部	
			○学部長、学科長、学務主任、学生主任を構成メンバ	
			一とする四役会にて、学部全体の内部質保証の実態	進を新カリキュラム構築等と関連させ
			把握と活動の推進に責任を持つ体制を整えた。	て運営する。
			(2019年度)	
			※「教育推進会議」の構成は、学長・副学長・各研	
			究科長・各学部長・各学科長・事務長・学務課長	
			と責任を負う全学的メンバー組織になっている。	
(3) 方針及び手続	〇学位授与方針、教育課程・実施方針及び	S	文学部	
きに基づき、内部	学生の受け入れ方針の策定のための全	_	〇ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、ア	〇全学的な PDCA サイクルを機能させる取
	学としての基本的な考え方の設定	$igoreal{igota}$	ドミッションポリシーの 3 つのポリシーはすで	り組みまで行っていない。
	〇内部質保証の推進に責任を負う全学的	В	に策定され、公開されている。文学部としては、	〇設置計画履行状況等調査等で指摘され
るか。	な組織による学部・研究科その他の組織	С	精密に作られたカリキュラム自体が、それだけで	たことはない。また、文学部として独立
377 0	○ - 1五中級 1 − 0 + の 1 日 P		mai-n since y (- y - a print (cincin c	

における教育のPDCAサイクルを機 能させる取り組み

- 〇行政機関、認証評価機関等からの指摘事 項(設置計画履行状況等調査等)に対す る適切な対応
- ○点検・評価における客観性、妥当性の確

内部の質を保証しうるレベルであると考えてい るが、加えて点検評価における客観性・妥当性は 複数の担当者(学部長のほか、各学科の学科長な ど)による評価で十分に保たれている。

社会福祉学部

- ○地域社会、大学入試制度改革など時代の要請や本□○内部質保証の推進に責任を負う全学的 学の建学の精神と使命に基づく、新たな学位授与 方針、カリキュラム編成・実施方針及び学生の受力 け入れ方針を立案した。
- ○シラバスの作成様式を定め、各授業科目の授業時 間外の学修を含めた教育内容や成績評価基準を 把握しやすくすることで、学生の学修の充実を図 った。
- 〇カリキュラムマップを作成し、カリキュラムの体 **系性や順序性をわかりやすく示すとともに学部** ホームページで公開した。
- ○教員の持ちコマ負担の軽減を図った。
- ○社会福祉教育研究所の活動実績を所報にまとめ 発行した。
- 〇これら改善内容については教授会で学部長が報 告しその妥当性を教員間で確認・検証した。

看護学部

- ○アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、 ○学部の具体的運営に関して、実習判定 カリキュラムポリシーは、既に作成し公表してい るものの、文部科学省の学力の 3 要素との整合 性が不十分であることから、議論を行った。
- ○2022 年度実施の、厚生労働省の指定規則改定に ○PDCA サイクルによる委員会活動をより よる新カリキュラム検討に向け、実習の実態を調 査し、実習要綱を改訂した。
- ○学部の学位授与方針、教育課程、実施方針および 学生の受け入れ方針のための検討は、全学で実施 した。
- 〇看護系大学の基礎教育検討会の報告を受け、実習 打ち合わせ会を大学にて始めて開催す の目的・目標および方法についての実態調査を実 る予定である。

に外部第三者による評価は受けていな い。

な組織としては IR 室及び全学FD 委員会 が設置された。学部と独自に進めているも のと、全学での取り組みに協力するものと の整理を行い、具体的な指示を全学 FD 委 員会から受け、取り組む。

- 会議および保健師課程選抜、実習の補 習等、内規及び細則を作成し情報共有 の仕組みを強化する。
- 一層推進する。活動評価の一環として 学生アンケートを実施し、課題を共有 することにより、課題解決を引き続き スムーズに行う。
- ○2020 年度には、学部として臨地実習の

			施し、実習要綱を改訂した。これらに基づき、実習施設との打ち合わせ会議を学部として開催することを決定した。 〇学部の各種委員会の所掌事項は、3年前に役割を明確にしたことで、書面にて活動内容を共有できるようになった。 〇認証評価機関からの指摘事項は、検討し、必要な新たな対応を行った。 〇カリキュラムマップを作成し、カリキュラムの体系性や順序性をわかりやすく示すとともに学部ホームページで公開した。	学修経験の範囲と難易度の調査を実施する。 O3つのポリシーに基づく、大学改革のイメージを作成し、共有する。
			※認証評価機関からの指摘事項については、追評価 準備委員会を中心に、全教職員で指摘事項に取り 組み、全てにわたって改善した結果、大学認証評 価は適合の判定を受けた。認定期間は 2020 年 4 月1日~2025 年 3 月 31 日までである。	価を受けるための大学評価書類提出締 め切りは、2024 年 4 月 1 日である。今
自己点検・自己評 価結果、財務、そ	○教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等の公表○公表する情報の正確性、信頼性○公表する情報の適切な更新	s ⊗ в	文学部 ○ホームページなどを通じて、すべて公開している。また、英文日文の両学科とも、独立した学会誌を刊行しており、教育研究活動は十分に正確に公表されている。学会誌は年次発行であるので、逐次更新される HP とも合わせ、情報は適切に更新されていると言える。文学の独自企画「表現技術コンテスト」も、過去数年ぶんの結果を HP 上で確認できる。	OSNS などの積極的な理由を含め、社会に対する一層の浸透を図る。こちらから情報を提供するプッシュ型のみならず、先方から興味を持って本学 HP に来訪してもらうプル型にも配慮する。(魅力的なコンテンツの配信、検索エンジンのヒット上位占有など)
		С	社会福祉学部 〇社会福祉実習報告書、精神保健福祉実習報告書を発行し、実習教育の成果を公表した。 〇社会福祉学部研究紀要を発刊した。 〇社会福祉教育研究所所報を発行した。 〇新入生アンケート結果報告書を発行した。 〇新入生リトリートの実施による建学の精神の学	情報の更新を図り情報公開性を高め る。

		び・学修支援の効果に関する調査分析報告書を発	
		行した。	
		〇授業評価アンケート結果報告書を発行した。	
		〇カリキュラムに関するアンケート結果報告書を	
		発行した。	
		OFD 講演会報告書を発行した。	
		○授業内容や方法の改善に関する聞き取り調査報	
		告書を発行した。	
		○ホームページに教員の研究紹介コーナーを作り、	
		公開した。	
		〇ホームページで社会福祉実習、精神保健福祉実習	
		に取り組む学生の様子を紹介し、実習教育の成果	
		を公表した。	
		看護学部	
		〇ホームページを通して、自己点検・評価結果を公	○教員の教育・研究活動については、ブッ
		表している。	クレットを作成し、HP にて公開する。
		○教員の教育活動は、看護学部の紀要に公開してい	
		る。	
		※自己点検・自己評価については、その委員会におい	〇自己点検・自己評価については、外部評
		て十分協議して最終の評価としている。また、各学	
		部・学科・研究科の教育研究活動や学校法人の財務	
		状況についてもホームページに公表をしている。	
(5) 内部質保証シ 〇全学的なPDCAサイクルの適切性、有		文学部	
ステムの適切性に対		○2019 年度から、新設された教育推進会議が定期	○ 教育堆准会議け 2010 年度に設立された
ついて定期的に点 〇適切な根拠(資料、情報)に基づく内部		的に点検・評価をし、改善向上に向けた取り組み	新組織であるので、今のところ、その点
		を行なっている。	検評価結果をもとに改善・向上に向け
	s	を11なり Cいる。	
いるか。また、そ〇点検・評価結果に基づく改善・向上	A		た取り組みを行なっているとまでは言
の結果をもとに改			いにくい。
善・向上に向けた	₿	11.04-11.374-	
取り組みを行って	С	社会福祉学部	
いるか。		〇中期目標 2019 年度の中間評価および年度末評価	
		を実施した。	まとめた報告書、自己点検報告書、中期
		〇認証評価(追評価)報告書や自己点検報告書、中期	
		目標 2019 年度の中間評価および年度末評価報告	年度末評価報告書作成のため、学部長・

	書作成のため、学部長・学科長・学務主任・学生 主任が毎月1回ペースで検証しつつ、これらの報 告書を作成した。そのため評価結果に基づく改善 を速やかに行うことができた。	ペースで検証することを継続する。
	看護学部 O2019 年度は、全学で PDCA サイクルに則った活動 展開方法が推奨されてきた。そのため、学部としてもこうした方法に基づいた委員会活動を推進している。 O中長期計画に基づいた活動は、定期的に開催される学科会議にて報告し、成果及び課題を共有している。	り行われていくことにより、委員会活
	※内部質保証については、今年度定期的な点検・評価は行っていないが、「中長期目標企画会議」において、ほぼ同様の項目について、PDCAサイクルを駆使して不定期的ではあるが目標に対する結果等は論じて教育改善に努めている。	

3 教育研究組織

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設		s (A) B	文学部 〇学部および学科の構成について、適切であると考えている。新カリキュラムによって、学問の最新動向にも十分配慮している。 社会的要請への配慮も、可能な限り行っている。	いては、文学部の最新のカリキュラムを

			T	1
			社会福祉学部	○社会福祉教育研究所の規定を見直し、役 目の終わった事業の廃止と必要な事業の 企画といった運営の見直しを図る。
			看護学部 〇ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーと各教科科目との関連を明記したシラバスに改善し、周知を図った。 〇厚生労働省の指定規則の改訂に基づき、新たなカリキュラムを構築するための議論を開始するなど、社会の看護ニーズに沿った対応をしている。	には、看護学の動向を踏まえた議論が必要である。2020年度は、プロジェクトによる議論を踏まえ、2021年度の文部科学省への申請を目指したい。
			文学研究科 ○文学研究科の構成については、大学の理念・目的に合わせて設置されていて、適切なものと考えられる。	
			社会福祉学研究科 O3 つのポリシーに従って、シラバスを改善し、周知を図る態勢を築いた。	
			※大学の附属研究所である「地域総合文化研究所」、「社会福祉教育研究所」では、大学の理念・目的を基盤として、例年「地域学」や「研究所所報」などを刊行し、十分その目的を果たしている。	ように支援を図り、地域に貢献をする。
の適切性につい	○点検・評価結果に基づく改善・向上	S A B C	文学部 〇組織の適切性については、カリキュラムの改変時にコース制について検討するなど、適切に点検しているが、極めて厳密な言い方をすれば、これを以てしても、定期的な点検・評価を行っているとまでは言えない。	移行を前提にした議論を予定している。

か。	社会福祉学部
	○教授会、学務委員会等各種委員会等の運営体制 ○教授会に各委員会が担当する業務課題を
	が適切に整備されている。また、計画、実施、報告し、分野横断的な対応・改善を図る
	評価(記録)の資料が整備され、必要に応じたための協議を行うことを検討する。
	改善を行っている。
	〇研究業績を学部紀要に掲載すると共に、社会福祉
	教育研究所所報に社会貢献活動紹介の項を設け
	ることで、教員の研究業績紹介を今年度も継続し
	〇ホームページに研究業績紹介欄を新たに作り、広 ・ カラカイン・トゥンド カッチ は
	く一般市民向けにわかりやすく教員の研究業績
	を紹介した。
	看護学部
	〇教育研究組織については、2017 年度より新カリ 〇2019 年度より、学部委員会で PDCA サイ
	キュラムの検討に際し、実態を調査し、それらに クルに則り活動を推進するよう提案し実
	基づき、適切に点検・評価が行われるような組織 施した。
	改編への取り組みを行っている。
	□ ○教育研究組織については、教員・教員組織ととも ○毎年、研究科委員会において、点検を行
	に点検を行ってきた。しかし、定期的な点検までいい、資料を作成していきたい。
	には至っていない。毎年、点検・評価するように
	改めたい。
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	に発表の機会を与え、その学業の向上に努めてい
	る。
	※各学部・学科・研究科の研究業績については、年 ※教員の研究業績一覧については、ホーム
	度ごとに研究科長・学部長に提出し教育研究の質ページにて公表している。ただし、外部
	向上に努めている。 評価を受けていないので今後の課題であ
	.

4 教育課程・学習成果

4		I .		
点検・評価項目	評価の視点	評価		課題・改善方策
(1)授与する学位ご とに、学位授与方針 を定め、公表してい るか。			文学部 〇ディプロマポリシーとして、完全に明示され公表 されている。学生便覧、ホームページにも記載されている。	
	表 学士課程・修士課程・博士課程の教育 目標の明示		社会福祉学部 ○学位授与方針を学則で示すとともに、学生便覧、ホームページなどにも掲載している。 ○コースごとの学位授与方針の原案は、2021 年度 入学生より適用予定の新カリキュラムに備え、 2020 年度に練り直すこととした。	育課程編成(カリキュラムポリシー)を、
		S A B C	看護学部	のように育成するかについては、議論を
			文学研究科 ○文学研究科では、一昨年度に学務委員会を中心に ディプロマポリシーを明文化し、研究科委員会に おいて定めることができた。引き続き、見直しを 行い、「建学の精神」を基にするという表現を加 えて、より適切なものにした。これは、『大学院 要覧』、およびホームページにおいて公表した。	ていきたい。
			社会福祉学研究科 〇学位授与規則を定め、ディプロマポリシー(学位 授与の方針)を大学院要覧、ホームページ上で公表している。	

			※ディプロマポリシー(DP:卒業認定・学位授与	
			の方針)を学生便覧・大学院要覧に掲載し、学生	
			に周知を図っている。また、大学学則・大学院学	
			則に学位授与を定め、DP及び学則ともにホーム	
			ページに公表している。	め、学位に相応しい人物を輩出している。
(2) 授与する学位ご	〇下記内容を備えた教育課程の編成・実		文学部	
とに、教育課程の編	施方針の設定及び公表		○教育課程の編成実施方針はすでに定め、公表して	
成・実施方針を定	・教育課程の体系、教育内容		いる。これに加えて、2019年度内に科目ナンバリ	
め、公表している	・教育課程を構成する授業科目区分、授		ング、カリキュラムマップを完成し、公表した。	
か。	業形態等			
	〇教育課程の編成・実施方針との適切な		社会福祉学部	
	関連性		○教育課程の編成・実施方針を学生便覧、ホームペ	〇社会福祉士・精神保健福祉士養成校に係
			一ジの学部紹介欄に記載して公開している。	る法令の変更に注意しながら、基準通り
			│ ○カリキュラムマップをホームページの学部紹介	の授業科目区分、授業形態等の体系を整
			欄に記載して公開した。	えられるよう常に検証していく。
			〇社会福祉士養成指定校規則、精神保健福祉士養成	
			施設設置運営に関わる指針にのっとり授業科目	
			区分、授業形態等の体系を整え教育活動を実践し	
		S	t=0	
		_		
		\otimes	看護学部	
		В	□ ○教育課程の編成・実施方針を学生便覧、ホームペ	〇厚生労働省は、2019年度に指定規則の改
		С	ージの学部紹介欄に記載して公表している。	
			〇カリキュラムマップをホームページの学部紹介	
			欄に記載して公表している。	○2020 年度は、カリキュラム改訂に向け、
			〇新しい教育課程を編成し、文部科学省に申請し、	「初年次教育の体系化」「実習の改革」に
			2019 年 4 月より実施している。	取り組む。
				- N N 1 2 0
			文学研究科	
			〇文学研究科では、一昨年度に学務委員会を中心に	 ○毎年、学務委員会を中心に見直しを行っ
			カリキュラムポリシーを明文化し、研究科委員会	
			において定めることができた。これは、『大学院	
			要覧』、およびホームページにおいて公表した。	
			〇カリキュラムポリシーの明文化の過程で、教育課	
			程の編成・実施方針との関係性が適切かを検証し	
			1	

			社会福祉学研究科 〇社会福祉学研究科の教育課程は、カリキュラムポリシーに則したものとなっている。毎年研究科委員会で協議され、その結果は大学院要覧、ホームページで公表し、オリエンテーション等で学生に説明をしている。 ※カリキュラムポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)を適切に定めホームページに公表している。	※カリキュラムマップ、ツリー、ナンバリ
成・実施方針に基づいた。というでは、各学位課程にはできた。というでは、教育課では、教育課では、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の	各学部・研究科において適切に教育課程を編成の措置 教育課程の無成の措置 教育課程の整合性 教育課程の整合性 教育課程の整合性の無成にあたっての順次性及び体制でののののではでののではでのではでのではできるでは、一人のでは、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	о в Θ ю	文学部 ○文学部では、数年に一度、カリキュラムの見直しを行なっている。伝統的に、見直しの都度、独立の「カリキュラム検討委員会」が設置される記しるの「カリキュラム検討委員会」が設置される記した。 は、場合によられている。は、場合によられている。なのでものしができている。である。 の2018 年度から年次進行中の新カリキュラムにおれている。 でとれては、教育課程が精密から年次進行中の新カリキュラムにおいては、教育課程が精密が大きに表別である。 の2018 年度から年次進行中の新カリキュラムにおれている。 できるの できるの できるの できるの できるの できるの できるの できるの	

適切に配置し、これらを有機的に結合した自由度 の高いもので、この規模の大学のものとしては日 本の最高峰にあると自負している。

社会福祉学部

- ○高大接続への配慮としてはオープンキャンパス│○初年次教育の積み残し部分を埋めるため 模擬授業を通じて喚起すると共に、AO入試・推薦 入試合格者に入学前課題を出し添削指導を行っ! 3 年目を迎える。基礎演習 I と基礎演習 てサポートしている。
- 学前課題を、入学後の学修により強く関連する 内容となるように見直し、「文章作成の基本」のしい能力と技能を身につけられるよう、 課題冊子を導入して改善した。
- ○初年次教育として基礎演習Ⅰにおいて学部発行 の学士力向上ガイドブックを用いてレポートの 書き方等を指導している。また、広い教養を身に 付けさせるためヒロガク教養講話に参加させ他 学部の学生と共に「地元に密着した有益情報を有 する講師陣から教養知識を学ぶ」機会を提供して いる。
- 〇社会福祉実習および精神保健福祉実習などにお いて、学生の社会的及び職業的自立を図るための 教育実践を行っている。

看護学部

- ○文部科学省に対し、新カリキュラムの教育課程の○○初年次教育については、学部教育の中で 申請をし、2018年10月に承認を得た。
- ○2019 年 4 月より、学位課程にふさわしい授業科 ○教育課程の編成においては、実習体制の 目を開設し、新教育課程を開始した。
- ○教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 |○授業科目に適切な番号を付し分類するこ に配慮して、新カリキュラムを策定した。
- ○単位制度の趣旨に沿った単位の認定、個々の授業 課程の体系性を明示する仕組みを作成す。 科目の内容及び方法、授業科目の位置付け(必修、 選択等)、各学位課程にふさわしい教育内容の設 定については、新カリキュラムの策定の段階で検 討した。

の2年生の基礎演習Ⅱの教育が始まって Ⅱの担当者の情報交換会を開いて、その OAO 入試・推薦入試合格者に対して行っている入 連動制を高めることで、思考力、判断力、 表現力等、学生一人一人が学士力に相応 基礎教育科目の充実化を図る。

- 体系化する。
- 改革を重点的に取り組む。
- とで、学修の段階や順序等を表し、教育 る。

			○学部教育の順序性に関しては、新カリキュラム改	
			訂の中で検討し、カリキュラム改定に反映した。	
			○教養教育と専門教育のバランスと配置について	
			検討し、新カリキュラムに反映した。	
			 文学研究科	
			○文学研究科では、カリキュラムポリシーに示した	 ○適切であると考えられるが、引き続き、
			ように、コースワークとリサーチワークを適切に	
			組み合わせた教育を行っている。コースワークが	
			計 22 単位、リサーチワークが計 8 単位とバラン	
			スが適切になるように配慮している。	
			社会福祉学研究科	
			位去福祉子研先件 Oカリキュラムポリシーに示されるように、特論科	
			目で理念に基づき洞察力を高め、実践的経験を理	
			論に統合する実習科目と、仮説・調査・検証の過	
			程を展開する研究活動を主とする演習科目をと	
			おして、学修と研究がスムーズに行えるよう編成	
			している。	
				 ※カリキュラム編成にあたっては、常に時
			究科は各学位課程に相応しい講義科目を設定、教育実	代の要請に応えることを念頭に置きながら
			践を行っている。	策定し、各学位に相応しい科目を設定して
				いる。
	○各学部・研究科において授業内外の学		文学部	
	生の学習を活性化し効果的に教育を行			〇コロナウイルス危機下におけるオンライ
育を行うための			〇最低修得単位数を設定している。	ン授業の取り組みは、いまだ不十分であ
	・各学位課程の特性に応じた単位の実質	_	○現行のシラバスは、授業の目的、到達目標、学習	る。(2020/3 記)
ているか。	化を図るための措置(1年間又は学期		成果、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業	
	ごとの履修登録単位数の上限設定等)		計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び	
	・シラバスの内容(授業の目的、到達目	В	基準等の明示について、すべて満たしている。	
	標、学習成果、学習成果の指標、授業		〇授業形態、授業内容および授業方法についても、	
	内容及び方法、授業計画、授業準備の		十分に配慮されている。授業形態により、学生数	
	ための指示、成績評価方法及び基準等		を制限しているものもあるが、適切な履修指導を	
	の明示)及び実施(授業内容とシラバ		するためである。各学年の担当教員(本学の他学	
	スの整合性の確保等)		部で「チューター」と呼んでいるものに相当する。	

・学生の主体的参加を促す授業形態、授 業内容及び授業方法

〈学士課程〉

- ・授業形態に配慮した1授業あたりの学 生数
- 適切な履修指導の実施

〈修士課程〉

研究指導計画(研究指導の内容及び方 法、年間スケジュール)の明示とそれ に基づく研究指導の実施

文学部では伝統に則り「学年担当」と呼称してい る)により、履修指導は適切に行われている。

社会福祉学部

- ○公欠扱いなどの配慮をして学外での学びについ ○他大学との単位互換について、2年後に ても推奨している。
- 〇社会福祉士養成や精神保健福祉士養成に係る指l なるように検討を始める。 定科目が多く、他大学との単位互換や、学生主体 Oシラバスの精粗チェックを FD 委員会の の学外での学修など困難な現状を打破できてい ない。
- ○履修上限を設け、学務課職員によるチェックを行 成施設としての関係法令に則り、1 教室 っていることから制限以上の履修登録をする者 当たりの授業人数調整を行う。 はいない。なお、年間の履修上限を52単位から 48 単位に減ずる措置をとった。
- 〇シラバスの精粗については学部長・学科長・学務 主任が科目ごとに確認し、必要に応じて学部長か ら改善勧告を出すシステムを作っている。
- 〇授業形態に配慮した 1 授業あたりの学生数につ いても、社会福祉士・精神保健福祉士養成施設と しての関係法令に則り、適切に対処し少人数教育 を実践している。
- ○学生の「地域活動への参加」などを、社会福祉学 部ホームページの紹介欄にアップし公表してい る。

看護学部

- 再登録が可能になるように、56 単位までを履修 修会を継続して実施する。 可能な単位数とし適正化した。
- ○学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容およ び授業方法について、FD 委員会が研修会を開催 | 〇実習改革において、「技術教育の到達度の し、教授方法・内容を考える機会を設けた。
- 〇大学として、シラバスの様式を変更したため、授 の開催、看護領域間の実習要項の整合性 業の内容、到達目標、授業計画の関連を理解しや 確保、「実習運営内規の作成」を目指す。 すくなるよう配慮した。

- 行う予定のカリキュラム改正時に可能と
- 協力も得て実施する。
- 〇引き続き社会福祉士・精神保健福祉士養

- ○履修上限を設定し、前年度不合格となった科目の OFD 委員会を中心に、授業運営に関する研
 - 〇指定規則の改定による新たな実習体制を 構築する。
 - 合意」、学部主催の「実習打ち合わせ会」 〇定期試験の不正行為を予防するため、ガ

	〇定期試験の不正行為を未然に防ぐためのガイド ラインを作成し、試験監督などの対応を徹底し た。 〇各学年に対し、学務担当教員により、履修指導は 適切に行われている。	
	文学研究科 ○文学研究科では、社会福祉研究科とともに、研究 科間の垣根を越えて、共同研究を行っている。デス・アゴラと称する、死の問題を考える研究会を 催し、それに大学院生が参加して学際的な研究に 触れてもらい、主体的な学びを促している。 ○研究指導計画は、『大学院要覧』において「履修 指導および研究指導の方法、ならびに修士論文指 導スケジュール」として明示している。これをも とに、学期初めのオリエンテーションにおいて大 学院生に指導している。また、学生一人一人には、 指導教授が必修科目の「課題研究」において指導して、徹底を図っている。	要覧』を見直す中で検証していきたい。
	社会福祉学研究科 ○遠距離通学学生、とりわけ県外通学生の便宜を図るために、目下のところ全授業科目の集中講義化を行っている。 ○修論作成のための研究指導スケジュールは、学生要覧に明示しており、指導内容に関しては文書で経過報告を提出させ、研究成果の確認を行っている。	
	※文学部・社会福祉学部ともに、年間の履修上限を 48 単位としている。	※年間の履修上限単位に現在、資格取得単位が含んでいないので今後検討課題である。また、成績優秀者の履修上限取得単位撤廃等も検討課題の一つである。
(5) 成績評価、単位 O成績評価及び単位認定を適切に行うた認定及び学位授与 めの措置 を適切に行ってい・単位制度の趣旨に基づく単位認定	文学部 〇単位制度の趣旨に基づき、厳密な単位認定を行っ ている。	OGPA の導入から 4 年を経過しておらず、 成績評価の客観性厳格性を担保する(外

るか。 ・既修得単位の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性を担保する ための措置 卒業・修了要件の明示 ○学位授与を適切に行うための措置 ・学位論文審査がある場合、学位論文審 査基準の明示 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳 格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明 適切な学位授与

〇学位論文の審査は、主査1名に副査1名以上が必 S ずついて行われることになっているので、客観性 と厳格性は十分に保たれている。手続きと責任体 В 制も明らかである。 C

- 部に説明しうる)情報が集まりきってい るとまでは言えない。これは令和2年で 完成年次を迎えるため、情報収集と分析 が完成する予定である。
- ○学位論文【学部においては、卒業論文】 の審査基準自体は、必ずしも全員におい て一致しているわけではなく、学生に対 して明示されていないケースもあったの で、2020年度を目処に、ルーブリックを 作成・利用する予定である。

社会福祉学部

- ○単位未修得者が多い科目、そうではない科目のば ○科目ごとの単位取得状況、未修得者の数 らつきが生じている。
- ○各教科科目とディプロマポリシー・カリキュラ ムポリシーとの関連の明示について教員間で一 定の共通理解を図っている。シラバスにおける 具体的な表記は、学務課から提示されている。
- ○編入生の卒業校等で取得済みの単位の認定につ いては、学務委員会での慎重な原案作成と教授 会の議を経てこれまで適切に行っている。
- 〇4年生ガイダンス及び掲示場などでの卒業要件の 明示を行い注意喚起し、必要な学生を呼びだし 個別に学業督励を行っている。
- ○学位授与については教授会において、学務委員会 OGPAの有効な活用方法について検討する。 が卒業判定のための資料作成と原案提示を行い、 授与方針に照らして厳格に審議を行っている。

- などを組織的(学務委員会において)に 点検・把握するシステムを整え、結果を 学部長に報告する。その上で改善方法に ついて学部長が授業担当者と協議し、改 善策をとる。各学年末での追試験あるい は補習授業の実施も検討する。
- OFD委員会においてシラバスに評価方法お よび評価基準を明示しているか総点検し て学部長に報告する。その上で、学部長 とシラバスを作成した教員が是正と改善 方法について協議する。

看護学部

- 〇成績評価および単位認定の条件はシラバスで公|〇厳正な成績評価を実施できるよう、客観 表し、それらに基づいて適性に対応できている。
- ○学位審査は、学務委員会にて組織的にかつ適正にしてた対応を実施していきたい。 審査し、決定をしている。
- 績を客観的に評価し決定している。
- ○実習への参加の可否を判定するための、「実習判|○保健師課程の学内選抜において、成績評|
- 的な基準に基づき評価できるよう、継続
- 〇成績評価における学修成果を総合的に判 ○実習は、評価基準を明示し、それらに基づいて成 断する指標として GPA を採用し、適正な 対応を行いたい。

			定会議」の仕組みを検討し、2020年度からの実施を準備した。 〇実習における成績評価、単位認定を適切に行うため、細則の合意と運用を検討する。	GPA を導入した細則を検討する。
			文学研究科 ○文学研究科では、学位論文に関して『大学院要覧』 に「修士論文の査定と合否」としてその査定の基準を明示している。10項目に関して重点的に審査し、5段階評定方式による。今年度、見直しを行い、順番、および表現を一部改め、適切になるように改善した。 ○修士論文に関しては、面接試問を主査と副査によって行い、客観的に審査を行っている。 ○学生には、学期初めのオリエンテーションにおいて説明して周知をはかっている。	ていきたい。
			社会福祉学研究科	
			※成績評価に GPA は活用しているが、卒業認定や進級条件に適切には定めていない。 ※単位認定・学位授与については、厳格な規程を定めて実施している。	の活用を構築中である。
明示した学生の学 習成果を適切に把	○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定 ○学習成果を把握及び評価するための方法の開発 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定	S A B C	文学部 〇学習成果の測定を目的とした調査を卒業時に行っている。	○アセスメントテスト、ルーブリックは 2019 年度では活用されるに至っていない。これらは 2020 年度から開始の予定である。同じく、卒業生、就職先への意見聴取は 2020 年度から開始される。

- ・学習成果の測定を目的とした学生調査
- 卒業生、就職先への意見聴取

社会福祉学部

- ○社会福祉実習、精神保健福祉実習の履修要件の○社会福祉実習、精神保健福祉実習の履修 厳格化に伴い、適用を受ける 1.2.3 年生の各授業| 要件の厳格化は、2021 年度の新カリキュ 科目への学習意欲に真剣さが増した。
- ○学習成果を把握及び評価するための方法の開発|○社会福祉実習履修ファイルの使用・実施| として、社会福祉実習履修ファイルを作成し学生 効果を検証する。 の学びの過程がわかるような教材を作った。

看護学部

- ○学生の学習成果を適切に把握し評価することに○学生の学習成果の適切な把握および評価 関連して、授業評価を実施している。これらの―― に関しては、今後も継続して評価を行っ 部は集団データとしてホームページで公表して ていく。 いる。
- ○つさらに、卒業時に学生を対象にアンケート方式に についての意見を聴取し、学部対応を検 より学習環境についての意見を聴取し、環境改善証する。 に役立てている。
- 〇ルーブリックを活用した測定については、大学FDI に基づき、演習及び実習の到達度を評価 委員会の研修会を聴講しており、今後具体的に取 する。 り組みたい。

文学研究科

- ○文学研究科では、学習成果に関しては、とくに修 ○毎年、学務委員会を中心に見直しを行っ 士論文、および面接試問において 10 項目の重点 ていきたい。 項目をあげて、それに基づいて客観的に評価を行 ○学生へのアンケート調査は継続して実施 っている。今年度、見直しを行い、表現を改めた。」して、改善方法を見出していきたい。
- ○学習成果の把握を行うために、昨年度に「引き続 き、今年度も学生へのアンケート調査を実施し た。

社会福祉学研究科

〇ディプロマポリシー(学位授与の方針)に即した 学修成果は、卒業時に行う卒業時アンケートで把 握する。

- ラム改正時の参考資料とする。

- ○卒業時にアンケート方式により学習環境
- 〇「看護教育の技術教育と卒業時の到達度」
- ○学生の学習成果を適切に把握及び評価す るため、アンケート方式による調査を実 施し、改善方法を検討したい。

			※学修成果を測定するため、2020年3月13日に卒	※2 年~3 年の学修成果等の調査について
			業生アンケート及び学修行動・学修成果アンケー	は、2020年4月のオリエンテーションに
			トを実施した。結果については、2020 年 4 月以	実施予定であり、この結果も卒業生同様
			降にホームページに公表予定である。	ホームページに公表予定である。
(7)教育課程及びそ	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点		文学部	
の内容、方法の適切	検・評価		○文学部では不断にカリキュラムの見直しを行な	
性について定期的	・学習成果の測定結果の適切な活用		っているが、4~5年に一度は大幅な改訂を行う。	
に点検・評価を行っ	〇点検・評価結果に基づく改善・向上		この際には教授会から独立した「カリキュラム検	
ているか。			討委員会」が特別につくられ、場合によっては学	
			部学科の編成にまで踏み込んだ提言を行うこと	
			が認められるのが慣例である。	
			また、この委員会は学内外の全ての資料情報を	
			収集閲覧する権限を付与されており、適切な根拠	
			に基づいて点検評価した上で、改善向上を提言す	
			る。	
			なお、上記「4 の (3)」を参照されたい。	
			0.000 THE 1.02 (0) I E 2 W. C. 10.20 9	
			 社会福祉学部	
		s	○授業評価アンケートを実施した。その結果を検証	 ○引き続き授業評価アンケートを実施す
		A	し、適切な教育課程編成に結びつけている。	る。
		_	して 過 別な 我 自 麻 生 棚 双 こ 相 し つ 1) こ で 。	· • • •
		В	看護学部	
		С	1回版子印 ○教育課程については、定期試験などを通して、学	 ○利日ゴレの数ち内突む上が方注け、宝能
			修理解度を把握し、測定結果に基づいた適切な対	
			応を実施した。	∩歴に男める。 ○実習に関しては、文部科学省が作成した
			心を美心した。	技術項目の卒業時の到達度に基づき、学
				投制項目の平米時の到達度に基づさ、子 部独自の到達度を決定する。
			大学可 尔 利	
			文学研究科	
			〇文学研究科では、一昨年度においてカリキュラム ポルシュナ党及手具のにおいて明立化し、研究科	
			ポリシーを学務委員会において明文化し、研究科	
			委員会で定めた。その際に教育課程の内容の適切	
			性について点検した。コースワークとリサーチワ	改善をはかっていきたい。
			一クをバランスよく設定している。	

	社会福祉学研究科	
	※学修成果の結果は、上記(6)のアンケート結果 を踏まえて、検証を加え授業改善につなげ、適切 な学修教授を展開し学生の知識・学力向上につな げている。	

5 学生の受け入れ

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法		文学部	を学校訪問や広報媒体を使って宣伝して いく。
			看護学部 ○学生の受け入れ方針に関連して、アドミッションポリシーに基づいて、学生の受け入れ方針を公表している。 ○全ての入試方法の受験生に対して、学習習慣を継	とが出来るであることから、提出の有無 および内容を評価した。その結果、全て

		続させるために、読書感想文などを入学前課題と して提示し、定期的に事前課題を提出してもらっ た。	た。 〇本年度は、推薦入学制度による予定者の みならず、すべての入試選考方法にて入 学する生徒に拡大し、実施した。また、 入学後の基礎演習の学修に繋げるなど、 活用の幅も拡げた。
		文学研究科 〇昨年度、「教育課程の編成の考え方」等を見直し、新たに①学生の受け入れ方針(アドミッションポリシー)、②教育課程の編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)、及び③学位授与方針(デイプロマポリシー)を設定し、『大学院要覧』に掲載し、公表している。 〇新しい「学生の受け入れ方針」に基づき、希望者の学習歴・求める学力・能力等の水準判定方法について、具体的に設定する作業を継続している。	と水準判定とのギャップの調整に苦心し
		社会福祉学研究科 〇研究科ではアドミッションポリシーを定め、ホームページや募集要項等で公表し、入学希望者に求める学力や能力を明示している。	
		※大学の理念・目的に基づいたアドミッションポリシーを定め(AP:入学者受入れの方針)適切に執行し、本学が求める学生を受入れている。	
(2) 学生の受け入れ方針に基づく学生	定 こした入 整備 A B	文学部 ○入試委員会、合同入試委員会などにより、制度 は適正に設定されている。 ○入学者選抜は、きわめて厳密、公正である。 ○入学希望者への合理的な配慮にも、欠けるところ はない。	

社会福祉学部	る。 〇合理的配慮を求める受験者については、 不公平が生じないように適切に対応をす
看護学部 ○入試委員会・合同入試委員会により、制度は適正に設定され運営されている。 ○入学者選抜は、新たに編入制度を導入するなど、多様な選抜方法にて、入学者を適正に選抜している。 ○面接に関しては、「知識・技能・態度等」に関する評価基準を作成し、実施している。	する。 〇転入及び留学生の受け入れを検討する。
文学研究科 ○文学研究科に設置している入試等検討委員会で、学生募集及び入学選抜が、受け入れ方針に従って行われているかを確認している。 ○学生の受け入れ方針(アドミッションポリシー)も点検し、求める学生像を確認している。 ○入学選抜については、大学院担当教員全員によって、適切に選抜している。	
社会福祉学研究科 〇学生募集に関しては、選抜方法を含め毎年検討を重ね入学制度を整備している。 ※各学部・研究科入試委員会にて厳選に協議し、最終的に教授会で合否判定を行っている。	※現段階では、入試業務に関して問題点は ない。

け入れを行うとと 〈学士課程〉 いるか。

(3) 適切な定員を 〇入学定員及び収容定員の適切な設定と 設定して学生の受 在籍学生数の管理

- もに、在籍学生数・入学定員に対する入学者数比率
- を収容定員に基づ・編入学定員に対する編入学生数比率
- き適正に管理して・収容定員に対する在籍学生数比率
 - ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又 は未充足に関する対応

〈修士課程〉

・収容定員に対する在籍学生数比率

文学部

- 〇日本語・日本文学科においては、入学者が定員を 満たしつつある(2020年度の入学者は、ほぼ定員 を満たす予定)が、英語・英米文学科においては、 なお定員割れが続いている。(2020年度入学者で 80%程度か)
- ○編入学生数比率は年度毎に上昇傾向にあるが、適 正な比率の範囲内にある。

社会福祉学部

- 〇編入生試験を実施し1人を受け入れた。
- 〇学年によって在籍学生数にばらつきはあるもの の、演習(グループ学習)授業ができないほどの低 下は無く、適切な教育環境を維持できている。

〇引き続き編入試を実施し改善を図る。

В

S 看護学部

- ○入学定員は70名であるが、2020年度は定員を充○70名の定数を確保するため、継続的して 足することができていない。
- ○国家試験の合格率の向上を図り、定員の確保に向 ○主に県内の高校に向けて、HP にて模擬授 け努力している。

努力したい。

- 業をPRし、出張講義を増やしたい。
- 〇教員ごとにブックレットを作成し、大学 の魅力を広報する。

文学研究科

○学生の受け入れについては、文学研究科に設置さ れている入試等検討委員会で点検し、それを受け て研究科委員会で確認している。

社会福祉学研究科

〇入学定員は10名で、収容定員20名となってい る。在籍学生は4名で学生数比率は20%と多い とはいえないが、充足するための方策を検討し、 実施している。

※学部(学科)

①入学定員に対する入学者数比率 95.9% |

※学部・学科の入学定員については、現段 階では適切な人数と判断しているが、大

			文学部	学院(修士課程)については、入学者数
			・英 語・英米文学科 84.0%	が少ないため定員減の検討を今後行う必
			・日本語・日本文学科 112.0%	要がある。
			社会福祉学部(社会福祉学科) 94.0%	
			看護学部(看護学科) 94.3%	
			②収容定員に対する在籍学生数比率81.1%	
			文学部	
			・英 語・英米文学科 60.0%	
			・日本語・日本文学科 9 1. 0 %	
			社会福祉学部(社会福祉学科) 77.8%	
			看護学部(看護学科) 91.8%	
			〇収容定員に対する在籍学生数の未充足	
			(81.1%)については、「新戦略会議」、「中長	
			期目標企画会議」等において戦略を練り、年々	
			充足率が向上している。	
			〇編入は例年 2~3 名である。	
			※修士課程	
			①収容定員に対する在籍学生数比率	
			・文学研究科 15.0%	
			• 社会福祉学研究科 20.0%	
			〇大学院の収容定員に対する在籍数比率は、非常	
			に低いので、募集戦略を含めて将来を見通した	
			抜本的な改善が必要である。	
	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検		文学部	
れの適切性につい	1			〇入試形態や実行日時などについて、改善
て定期的に点検・	〇点検・評価結果に基づく改善・向上		に点検評価されている。資料、情報は十分に提	は年ごとに不断に行われている。特に
評価を行っている			供されている。	2020 年度からの新入試制度については、
か。また、その結		s		長年積み重ねてきた議論が生かされるも
果をもとに改善・		_		のと期待される。しかし、コロナウイル
向上に向けた取り		$igoreal{igota}$		スの危機下、状況が一変したのも事実で
組みを行っている		В		ある。(2020/3 記)
か。		С		
			社会福祉学部	
			〇定員 50 名を各入試形態別で何人ずつ募集する	○学生の受入れの適切性については、入試

か、過去の受験者数などの根拠資料と入試委員会 での慎重な検討と、教授会の議を経て決定した。 その結果、適切な入試倍率による募集に繋がっ た。

○学生の受入れの適切性についての点検・評価は、 入試合否判定に係る入試委員会の慎重な検討と、 教授会での審議により、厳格に行われている。

委員会の検討と教授会での審議という二 段構えの手続きで、厳格に行われている ので継続する。

看護学部

○学生の受け入れのうち、学生数は充足していない ○学生の受け入れの適切性については、今 ことから、適切性は保たれていない状況がある。

- 後も継続的に取り組みたい。
- 〇入学時に、新入生に対して学生アンケー トをとり、実態を把握する。

文学研究科

- ○文学研究科に2名(留学生と本学学部生)が入学|○昨年度に引き続き、入学者の増加を図っ 選抜に合格し、2020年度に入学する。入学定員は て、左記の①~③を一層強化したい。ま 10名で、収容定員20名になっている。本年度2 た、専門分野の著書(単著)も刊行して、 名(本学の学部からの進学)の院生が修了するの 本研究科の存在を学内外に示したい。 で、次年度の院生はまた2名になる。したがって 学生数比率が10%で忸怩たるものがある。
- 〇定員を充足するために、次のことをした。
 - ① パンフレット・リーフレットの発行。
 - ② 教育研究活動の社会への発信(継続的な市民 講座)(「古典を読む会」など・出前講座)。
 - ③ 文学研究科と文学部との連携を強化した。例 えば、本年度、文学部の教授が研究科の教授にも なり、両者の連携は一層強化された。

社会福祉学研究科

- 〇入学生アンケートにより、入学者の動機・進路決 定時期等々、あらゆる情報を収集し入学生確保に 取り組んでいる。
- ※「新戦略会議」や「中長期目標企画会議」で県内|※高校生の少子化の影響のため、競合する| 外の高校生の入試動向の調査や高校訪問などを 大学の状況調査も含めて、入学生確保に

		通して適切な資料に基づき、学生の受け入れを定期的に検討している。	あたっているが、高校生が何を大学に求めているか不透明感があるため、試行錯誤が続いているのが現状である。そのため、本学の強み(魅力)を積極的に高校生にオープンキャンパス等で売り込んでいる。
--	--	----------------------------------	---

6 教員・教員組織

6 教員·教員組織				
点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 大学の理念・目 的に基づき、大学 として求める	○大学として求める教員像の設定・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等○各学部・研究科等の教員組織の編成に関する方針(各教員の役割、連携のあり方教育研究に係る責任所在の明確化等)の	<u> </u>	文学部	○教授会を通じて科研費申請、地域貢献等に積極的に取り組むよう学部長・学長より促す。○教育・研究者としての資質のある教員を、
			等)の基本的な要件を明示している。	

成に関する方針に	〇適切な教員組織編成のための措置 ・教育上主要と認められる授業科目にお ける専任教員(教授、准教授又は助教)	社会福祉学研究科 〇教員組織は大学院要覧に明記し、設置基準に定められた数の専任教員で運営している。 ※「本学の求める教員像及び教員組織の編成方針」を策定しホームページに公表し、適切な組織運営にあたっている。 文学部 〇年齢構成は、2019 年度から 2020 年度にかけて、退職した 60 代教員に替えて 20 代~30 代の教員を複数名、新たに雇用したので、相当に改善した。 ○文学部では、教員は適正に配置されている。外国人教員は 24 パーセントで、前年度に比べ比率は少し低下した。 ○年齢構成は、近年、多少の高齢化が目立つが、許容範囲である。 社会福祉学部 ○認証評価実地調査での指摘を受け、専任教員の受け持ちコマを週8コマ以下に平準化した。 ○関係各所からの事務・雑用処理は一部の教員に負担が集中する状態となっている。結果、教育完活動に時間を費やすことのできる教員とそうでない教員の格差が拡がった。	○適切に編成しているが、文学部の場合、 女性教員は3名にとどまり、その比率 17%で、目標とする40%にはまだ遠い。 〇新規公募の場合は、女性教員を採用マテー く努力する必要がある。(アファーテー ズ・アクション)また、これ以上年齢 成が高い方に偏らないよう、新規採用時には若年層を採用すべきである。 〇年齢や男女構成比など学部専任教員構成のバランスを引き続き調整する。 〇2021年度からの新カリキュラム改訂によって専任教員の受け持ちコマ数をさら
		看護学部 ○教員採用計画を立案し、年次ごとに教員数を確保している。今後も継続した取り組みをしていく。 ○適切な教員組織編成は、今後も継続的に取り組んでいく。	きがあり、今後是正の取り組みをしてい

		文学研究科 ○文学研究科では、研究指導教員が定員の3名を充足した。また研究指導補助教員として2名おり、総数5名で、設置基準を充たしている。 社会福祉学研究科 ○専任教員は、研究科の履修領域の専門領域を十分満たす教員配置となっている。(研究指導教員等は設置基準を満たしている) ※本学の大学設置基準に定める、大学専任教員数は50名であるが、現在専任教員は54名在籍し教員	※適切に専任教員は配置し学生の教育研究
		定数は充足をしている。また、各研究科の研究指導教員(3名)並びに研究指導補助教員(2名) も充足している。	35.2%のため、今後女子教員の比率を高めたい。 ※年齢構成については、令和元年度の専任教員の平均年齢が57歳であった。バランスの取れた年齢構成をどこに設定するかは、担当講座等の絡みもあるので難しい点があるが、今後の検討課題である。
 ○教員の職位(教授、准教授又は助教等) ごとの募集、採用、昇任等に関する基準 及び手続の設定と規程の整備○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等 の実施		文学部 〇採用については、厳格な規程に基づき、完全に公明正大な公募を行なっている。2020 年度 4 月から着任予定の教員 1 名も、このような完全公募によっている。 社会福祉学部	に実行していく。
	s ⊗ в ∪	○採用、昇任に関する基準及び手続の設定と規程は整備している。 ○採用、昇格が適当と認められる者がいるときは、小委員会を設置して、基準に照らして審査選考を行っている。 ○学部長から小委員会の選考の経過及び結果を学長に報告し、採用、昇格すべき者を決定した場合には、その採用、昇格を学長に内申している。 ○専任教員の採用に際しては、教育研究業績・実務	員会を設置しての審査選考を継続する。 〇事務・雑用等の処理により学内貢献した教 員への人事評価の仕組みを改善する。それ に限らず大学運営・経営に貢献した者へは、 昇給・賞与上乗せ並びに昇格によりモチベ ーションアップを図る体制を整える。

			_	,
			家教員の職務実績を踏まえて教授会での厳正な	
			審査と承認を経て実施した。	
			看護学部	
			○教員の昇任については、人事委員会を開設して審	○学則や採用・昇格の基準に照らし、人事
			議し、適切に対応している。	小委員会を設置して、審査選考を継続す
				る。
			文学研究科	
			〇文学研究科では、基準及び設定された手続と規定	
			にしたがって、採用・昇格を適切に行っている。	
			100元のラで、「赤川、 外間と歴初に刊って	
			 社会福祉学研究科	
			○教員の採用、昇格は規定に則り行われている。	
			○教員の採用、弁伯は就足に則り11474にている。	
			 ※「本学の求める教員像及び教員組織の編成方針」	Vゼロの八草は主に「IDEC IN Dortal」の
			や「本学の教育方針及び大学教育理念」に基づき	
			「本学の教員採用及び昇格の選考に関する規程」	ら行い、多くの応募者の中から本学の教
			を遵守し、その規程中に選考基準、採用・昇格手	
			続きを定め採用等を厳格に実施している。	員を採用している。
	〇ファカルティ・ディベロップメント(F		文学部	
ディベロップメン			〇新たに全学的な組織としての FD 委員会が立ち上	
ト(FD)活動を	〇教員の教育活動、研究活動、社会活動等		がったので、それに全面的に協力する形で学部内	く。特に、ICT教育の分野については、教
組織的かつ多面的	の評価とその結果の活用		の FD 活動を組織的かつ多面的に実施している。	育間のスキルの差が激しいため、これを
に実施し、教員の				埋めるべく活動していく。
資質向上及び教員				
組織の改善・向上		S	社会福祉学部	
につなげている		\triangle	〇社会福祉学部主催の FD 研修会を 11 月に開催し、	OFD 研修会の開催を継続する。
か。		_	教員の教授法の改善に努めた。また、研修会報告	
		В	書を作成して情報を共有した。	全員の感想や受講者アンケート分析から
		С	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
			学部研究紀要に、自己申告により掲載して公開し	
			ナの明九礼安に、日己中日により掲載して公開した。	動の実績を公開・PR する機会を着実に増
			│	
			研究所報に掲載して公開した。	課に盛り込めるように検討する。
			○専任教員の研究紹介コーナーをホームページに	

		作り公開するとともに、ゼミナール授業の様子 や学生との課外活動の様子をホームページに掲 載して教育活動の PR を図った。	
		看護学部 OFD 委員会が年間計画を作成し、本格的に活動を実施している。とりわけ、2018 年度以降は「大学における教育とは何か」について、継続的に講演会を実施している。 O教員の科研費申請状況は、全教員が申請している状況ではないことから、申請を促す活動を行っている。	いく。 ○看護学部の FD 委員会は、大学の FD 委員 会とも連動して、教育の質の向上に取り 組んでいく。
		文学研究科 〇大学院生獲得のためにも、FD 委員会の下で、院 生・学生の学力向上を促す指導の工夫を共有したい。	
		社会福祉学研究科	
		※全学教職員(法人本部職員含む)参加のFD・SD研修会並びに各学部主催のFD研修会を適切に実施し、教育の資質向上に努めている。	
(5) 教員組織の適 〇適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・ 切性について定期 評価 的に点検・評価を 〇点検・評価結果に基づく改善・向上	S A B	文学部 〇学部長による定期的な点検はあるが、それ以外に は点検評価を特に行っていない。	○2019 年度末に、学部長以外による新たな 点検評価を行うようにする予定であった

行っているか。ま	С		が、コロナウイルス問題のため、延期せ
た、その結果をも			ざるを得なくなっている。(2020年3月
とに改善・向上に			末)
向けた取り組みを			2147
行っているか。		 社会福祉学部	
110 (((a)),			
		○学部長が必要に応じて各種委員会の委員長より	
		業務報告を受け全体を把握した。また、「中期目	
		標計画」及び前年度自己点検結果に基づく「令和	
		元年度課題改善計画」に沿ってビジョンを示し、	織を作る。または自己点検・自己評価委員
		各種委員会の委員長に業務を割り当てるともに	会での検証機能を高める。
		進行についても管理した。	
		, <u> </u>	
		看護学部	
		一〇教員組織の適切性について、学部長、学科長、学	〇 教員 組織の ミナー 助教 及び 助手の割合 が
		務主任、学生主任との定期的な情報共有をしてい	
		る。	たい。
		文学研究科	
		○文学研究科では、専任教員が充足している。点検・	〇研究科の専任教員として有資格者を視野
		評価のもとに、さらに向上するように取り組んで	に入れ点検・評価の結果によっては、順
		いる。	次昇格を実施したい。
		 社会福祉学研究科	
		〇教員組織については、教員の専門とカリキュラム	
		とが適正となっていることを重視し、毎年見直し	
		ている。	
		※教員組織については、各学部長を中心に検証を行	※教員組織についての点検・評価は、教育
		い、学長へ具申しよりよい教員組織構築を図って	運営上重要な要素の一つである。組織が
		いる。	停滞していれば、教育の向上はあり得な
			い。そのため、常に検証・結果・改善の
			PDCAサイクルを回しながら教育実践を行
			っている。
			J C U O o

7 学生支援

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
			文学部	
を明示しているか。		s 🕲	メイド教育を行う」ことを、オープンキャンパス や高校生対象の進学相談会で訴えている。各種パ ンフレット、ホームページ等でも公表している。 入学後の学生については学生便覧に明示し、周知 している。 〇経済的な支援としては、成績優秀者および経済的 な困難を抱えた学生を対象にした本学独自の3 種類の修学支援(成績優秀者を対象とした授業料 1年間全額免除の特待生制度、経済的な困難を抱 えた学生を対象とした、授業料半額免除の奨学金 と無利子貸与奨学金)があり、これらを社会福祉 学部でも実施した。	○演習担当、学生委員、学務委員の教員の 一層の連携と積極的なアプローチによ り、学生支援の充実を図る。
) в с	看護学部 ○2018 年 4 月より、チューター制度を導入している。 ○チューター制度に関する規約を作成し、運営組織を整備した。 ○日常的な授業欠席者(2回継続で欠席)を早期に把握し対応するなど、成果をあげている。 ○チューターによる定期的な面接および集会が実施されており、学生への支援が確実に実施されている。	検討していく予定で、2019年度は学生及び教員の双方を対象に調査を行った。今後調査結果をもとに、改善につなげたい。
			文学研究科 〇文学研究科では、新年度初めに新入生全員を集め て全教員とともにオリエンテーションを行って いる。学生生活、勉学上の不安を解消するよう努	プログラムを充実した内容にする必要が

			めている。	
			めている。	
			社会福祉学研究科 〇社会福祉学研究科では、新年度初めに新入生対象に、オリエンテーションを行い、学生生活及び勉学の向上と不安解消に努めている。	
			※「本学の学生支援の方針」を定めホームページに 公表し、適切に学生支援を行っている。	※学生の学修に係る支援、進路選択に係る 支援、心身の健康に係る支援など学生の 大学生活全般を支えるための多くの機能 を有する体制は構築しており、有効に働 いている。
(2) 学生支援に関	○学生支援体制の適切な整備		文学部	
方針に基づき、学 生支援の体制は整 備されているか。 また、学生支援は	・留学生等の多様な学生に対する修学支	S A B C	○成績不振の学生の状況把握と指導については、各学年に配置された学年担当者(複数、すべてでいるが、生学部では伝統的に学年担当者と呼んでいるが適切に対応している。具体的には、授事を担当者を経て全教員に素早く伝えられについては、投票を生力を発生を主きる。 ○退学希望者の状況把握と対応については、上記と全く同様である。 ○退学希望者の状況把握と対応については、上記の他に学務担当の委員も加わって対応する。休況学会の他の経済的支援の整備についる。 ②契学金その他の経済的支援の整備についる。 ②契学金その他の経済が実質稼働している。 ②対テスメント対策員会が実質稼働している。 ②2020年度からは保健センターが稼働するである。 ○学生の進路に関する適切な支援の実施に関わる支援の実施に関わる支援の対が対応している。進路選択に関わる支援が対が、の実施も同様である。 ○学生の進路に関する適切な支援の実施に関わる支援やガイダンスの実施も同様である。	ャリアセンター化は、現在検討中である。また、学生の各種の要望に応じる組織がいくつかにわかれており、いわゆる「ワンストップ」になっていない点には改善の余地がある。 〇稀なケースでも完全に対応できるよう、マニュアル化も含め、より一層深化させていく。 〇現在、学部長において実験的に使用している情報共有ツールの全学部共有化を図る。

せるための支援の実施	る。学生の要望に応じた学生支援についても同様	
〇その他、学生の要望に応じた学生支援の	であり、現状でほぼ充足していると考えられる。	
適切な実施	〇以上のように、支援体制は整備されている。ただ	
	し、特別なケース(稀な傷病など)では、完全に十	
	分であるとは言えないケースもある。	
	〇成績不振者については、学部教員間の迅速な情報	
	共有により、適切に指導できている。留年・退学	
	者数とも、文学部は全国平均を下回るが、さらに	
	指導を徹底させていく。セクシャルハラスメン	
	ト、アカデミックハラスメント防止のための体制	
	は、過去の経験を十分に踏まえ、適切なものとな	
	っている。	
	〇キャリアセンターは未設置である。就職課がその	
	任にあたっているが、他大学に比べて十分な体制	
	とは言えない。	
	○学生の課外活動への支援は、適切に行われてい	
	るが、金額的には十分とは言えない。	
	社会福祉学部	
	〇演習担当、学生委員会、学務委員会の教員が、悩	〇コース選択などで悩みを抱えている学生
	みや問題を抱えた学生にアプローチし、問題の早	の相談に各教員が引き続き対応する。
	期解決に向けた働きかけができる態勢にした。	○国家試験の受験に際して抱える不安や悩
	〇障害学生支援ハンドブックを活用し、障害のある	みについて国家試験対策委員の教員が個
	学生に対する修学支援に関する知識を学部内の	
	教員及び学生間においても広められるよう努め	
	<i>t</i> =.	いる学生への学業督励に引き続き力を入
	〇成績不振、留年者及び休学者の状況把握、退学希	
	望者の状況把握と対応については、学務委員会の	
	教員が相談に応じた。また、退学や休学などいず	
	れのケースでも必ず教員面談を経て学長面談に	の図書館の活用を重ねて指導していく。
	進むように幾重にも面談とフォローを行った。	
	O1 年から 4 年までの各ゼミナール、または学生委	
	員の教員などが学生の進路に関する相談に応じ	
	適切な支援をすることができた。	
	〇コース選択などで悩みを抱えている学生の相談	
	に各教員が対応することができた。	

- 〇国家試験の受験に際して抱える不安や悩みにつ いて国家試験対策委員の教員が個別に相談を受 けフォローすることができた。
- ○国家試験受験対策講座、模試等の補習教育を行っ
- 〇ホームページに学士力向上ガイドブックを掲載 し、ウェブでも同ガイドブックを閲覧できるよう にした。これにより、学生が図書館の活用の仕方 をいつでも確認できるようにした。また、同ガイ ドブックには、学習や研究に必要な資料・図書を 他の図書館から取り寄せする手順も掲載し、学生 の研究活動を後押しすることができた。

看護学部

- ○学生支援は、チューターを中心に、適宜保護者と○学祭は、学生の自主運営の意思を尊重し、 も連絡を取るなど、学生主任および学務主任、学 協力しつつ実施している。将来的には、 部長と協力して対応している。
- 〇成績不振者を早期発見し、早期に適切な対応がで きたい。 きる組織体制を共有している。
- 〇学生の心身の健康に関しては、学生課が健康診断 とした「認知症サポーター」の育成を企 などを実施している。
- 〇就職活動を支援するため、5月に「就職セミナー」〇就職支援行事に関しては、大学全体と連 を実施している。しかし、就職活動が早まる情勢 にあることから、2019 年度からは3月に開催す る予定にしている。
- ○2019 年度、就職支援行事を増やし充実を図って いる。
- ○国家試験に合格し、本人が就職を希望している学 生に関しては100%の就職が実現している。
- 〇学生の自主的な活動を支援するため、学祭等の運 営に関しても、学生中心の運営を目指している。
- ○学祭で、学生及び住民を対象とした「認知症サポ ーター」の育成を企画し、学生が中心となって運 営できるようになりつつある。
- ○学祭は、学生による実行委員会形式で運営し、終 了後は学生自らの振り返りを重視するなど、自主

- 学生が自主運営できるよう、支援してい
- ○学祭では、継続して学生及び住民を対象 画実施する計画である。
- 動して運営を行う。

			性を育成する場に位置付けている。	
			文学研究科 ○文学研究科では、修学に関して学務委員と学務課職員が連携して適切な対応に努めている。 ○毎年、就職セミナーや各種講座などの就職支援行事を計画的に実施している。 ○毎年、定期健康診断を実施し、学生の心身の健康保持・増進に努めており、異常が見つかった場合には医療機関での受診を行うよう指導している。 社会福祉学研究科	の連携を図る必要がある。また、心身に 悩みを抱える学生が増えているので、す べての教職員が丁寧な対応を心掛けるこ とが肝要である。 ○奨学金等、院生の要望に速やかに応える
			〇社会福祉学研究科では、修学に関し学務委員会と 学務課職員が連携して対応している。 〇毎年、定期健康診断を実施し、学生の心身の健康 保持と増進に努めている。 ※学生支援体制は、7-(1)・(2)の項目で述べたよ	
			うに確立されている。	-(1)・(2)の項目で述べたように確立されている。
切性について定期	○適切な根拠 (資料、情報) に基づく点検・ 評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	S A	文学部 〇学生支援は、主として学生委員会がその任に当たっているが、支援の適切性については、最終的に学部長が管轄している。場合によっては、学生委員会へ学部長が自ら出席する(2019年度内に、現実にそのケースがあった)など、適切に点検評価を行なっていると言える。	〇「定期的な」点検評価を行っているとまでは言えないので、2020年度からは、学生委員会に対する学部長・学科長による点検評価を強化し、改善・向上につなげ
		(B) c	社会福祉学部 ○入学時アンケート及び在学生アンケート並びに 卒業時アンケートを通じて学生支援の適切性を 図っている。現状はデータの収集に努めている所である。	果を基に改善に向けた策をどの部署が担

看護学部
〇学生支援は、2017年度より学生委員会を中心に〇入学直後、卒業研究の提出後、実習を終
PDCA サイクルにて活動を行っており、学生自ら 了した後、卒業時などの機会をとらえて
の自主性が芽生えるなどの変化がみられている。 学生アンケートをとり、学生支援の適り
〇入学直後、卒業研究の提出後、実習を終了した後、性を評価する。
卒業時などの機会をとらえて、学生アンケートを O2020 年度より、基礎演習の共通講義 (
とり、学生支援の適切性を評価している。 回)で「4年間の見通しをもつ」ことを目
〇2020年4月に入学した学生を対象に、「新学生生 指し「自立と体験」および「大学生の学
活応援集会」を開催した。初年次教育の一環で、 び」などを講義プログラムに組んでいる。
先輩保健師・助産師・看護師の体験談を聞くこと
で、看護職へのイメージを膨らますことを目的と
した。実施後のアンケートには、ほとんどの学生
が「イメージを膨らますことができた」と回答し
ていた。
文学研究科
〇文学研究科では、昨年度、院生と教員との懇話会 〇出席管理を適切に行って、欠席の状態や
を通して、学生の要望を聞く機会を設けた。今年 不適応の予兆を早期に発見し、素早く学
度行えなかったので、アンケート等の代替方法で 科教員と連携して対応を行う組織的な式
学生の意見を吸い上げる機会を設けた。 援体制を強化する必要がある。
〇修学に関して学務委員や学務課職員が連携して
適切な対応に努めている。
社会福祉学研究科
〇社会福祉学研究科では、院生へのアンケートを行
い、学生の意見を吸い上げる機会を設けた。
○修学に関しては、学務委員や学務課職員と連携し
て適切な対応に努めている。
ツ労化士短に牡土で突切りに明土で中間がち上校「ツヴルナ短のはかはって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
※学生支援に対する適切性に関する定期的な点検・※学生支援の体制はできているが、その有
評価については、学生のアンケート結果に頼る必対性について、今後検証が必要である。
要があるが、これまで詳細なアンケートを実施し
ていないので支援体制の有効性については、判断
できていない。

8 教育研究等環境

8 叙月研究寺琼児				
点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。	る方針の適切な明示		文学部 ○2019 年度に、改めて適切に明示された。 社会福祉学部 ○年度初めに理事長、学長の経営方針・重点取組 事項等において示されている。	〇国家試験対策委員会は、学生と教員で構 成されており、学生の意欲を大切にしな がら、試験対策を検討している。
		S (A) B C	看護学部 ○学生委員会を中心に、学生の自治組織を強化するための支援を行っている。 ○本年度は、「認知症サポーター」の育成講座を学生中心の実行委員会組織を作り、開催した。 ○学祭期間中に開催した「虐待講座」も、学生中心の自主的な組織で企画運営した。	
			※「本学学生の学修に係る方針」を定めホームページに公表し適切に運営している。	
境に関する方針に 基づき、必要な校 地及び校舎を有 し、かつ運動場等	・バリアフリーへの対応や利用者の快適性に 配慮したキャンパス環境整備	s @	文学部 〇新 1 号館の完成により、施設、設備等の整備は飛躍的に進んだ。この建物に関しては全館 Wi-Fi 化が実現するなどネットワーク環境もほぼ整い、エレベーターの設置や多目的トイレなどバリアフリーへの対応、利用者の快適性に配慮したキャンパス環境整備も進んでいる。 〇教職員及び学生の情報倫理の確立に関する取り組みについては、特別なプログラムを立てたわけではないが、実習前の各種オリエンテーションや講義演習の中で必ず取り上げるようになっている。	については、全学生に端末を支給するに至らないなど、完全とは言えないところがある。 コロナ危機の到来の中、オンライン授業に対する準備は十分でない。(2020/3)
			社会福祉学部 〇履修届を学生自らパソコン入力により行うオン ライン化に移行した。また、作業の不慣れな学	

生へのサポートを学務課職員が行った。 たは扇風機などの対策が求められる。こ の教育環境改善に向けて要望を出してい ○学部学生の国家試験対策勉強室を用意し開放 した。2019年度に合格した受験生の多数が定期 **८** . 的に利用する結果となった。合格率の大幅な向 ○学部学生の国家試験対策勉強室を用意し 上は、対策勉強室の開放が成功したことが極め 開放することを継続する。また、勉強室 て大きい。 の環境整備(冷房)の整備の為の予算獲 〇実習指導や演習授業時に必要な機材が揃いつつ 得を関係各所との調整の上実施する。 ある。面接場面を再現、グループ討論を行いや 〇障がい学生支援委員会を中心に校舎・設 すい教室の広さなどを考慮して使用教室配分を 備のバリアフリー化の必要な箇所の検証 することができた。 を行い、改善を要望していく。 〇社会福祉実習報告会等は集客人数を考慮して 〇「障害学生支援ハンドブック」を活用し 広い教室で行うなど学習環境に配慮した。 障害をもつ学生の支援に力を入れてい ○障害学生支援ハンドブックを新入生にも配布し、 **८** 在校生には昨年度配布したものを活用してもら ○学生委員会の実施するアンケートをはじ った。このハンドブックと連動する形で校舎・設 め、日常的に学生からの学習環境の改善 備のバリアフリー化のスピードを加速させるよ に関する要望などを聞き、必要な改善措 う要望した。 置をとることを引き続き行う。 ○学生の学習環境の改善に関する要望などは学務 委員、学生委員問わず専任教員が受付け、各委 員会時に報告し、必要な改善措置をとることが できた。 看護学部 ○学内のネットワーク環境の整備を、順次、推し進 ○学内におけるネットワーク環境を整備し めている。 てほしい。 ○看護学部棟にはエアコン設備がないため、学生の○○地球温暖化のためで、気温の上昇が顕著 中には受講中に熱中症になる学生もおり、早急な であるため、冷房装置の教室への設置を 対策が必要である。 進めてほしい。(近隣大学では、すでにエ 〇夏季期間中の体調不良者のために、保健室の環境 アコンが設置されている) を整備した。 ○省エネ対策及び教員及び学生の健康づく りのために、エレベーターの使用を控 え、階段の利用を促進する。 〇オンライン授業の準備を推し進めるた め、ワーキンググループを立ち上げた。

	T	ı		
			※施設設備面に関しては、新1号館を建設しWi-Fi	
			の整備など教育環境面が一段と改善されたため	
			学生の教育向上の指導がさらに図られた。	になったが、さらに教育環境面を充実さ
				せるための課題は存在するので継続して
				課題解決に取り組む必要がある。
(3)図書館、学術情	○図書資料の整備と図書利用環境の整備		文学部	
報サービスを提供	・図書、学術雑誌、電子情報等の学術情報資料		O文学部は学生向けに独自に「文学部学生パソコン	〇図書館において、学生がインターネット
するための体制を			室」を運営している。4 台のパソコンを備え、情	
	・国立情報学研究所が提供する学術コンテン		報提供をサービスするための体制は備えている。	1-15/1/2 C C C 1/2 HI 07 35/10 /C 7 C C C C C C
	ツや他図書館とのネットワークの整備		ただし、例えばジャパンナレッジへの接続が打ち	
	・学術情報へのアクセスに関する対応		切られるなど、主として予算面から、十分といえ	
か。	・学生の学習に配慮した図書館利用環境(座席		ない側面もある。	
	数、開館時間等)の整備		〇図書館利用環境については、問題ない。	
	〇図書館、学術サービスを提供するための専門			
	的知識を有する者の配置		社会福祉学部	
			○限られた予算の中ではあるが、学部学生からの	〇学生と教員の希望を募り、必要な図書を
			リクエストなども聞いて必要な書籍を購入する	整備していく。
			ことができた。	〇開館日、時間、貸し出し冊数等利用者の
		s	○情報検索を駆使して他の図書館からの文献複	便宜を図っていく。
		_	写依頼などを学生が必要に応じてできるように	〇今後も継続して図書館の利用を働き掛け
			支援できた。	ていく。
		В	□ ○弘前大学図書館との相互協力協定に基づく利	
		С	用について案内し、同図書館の利用も促すことが	
			できた。	
			C = 15.	
			₹=#₩ ÷n	
			看護学部	
			〇図書館の開館時間が短いため、学生は実習後の利	
			用や、国家試験対策で図書館を使用したくても利	
			用できないこともある。	を増やしてほしい。
			〇演習室5に、実習後の自己学習を支援するため、	〇看護系の専門書などの利用を促進するた
			ミニ書籍コーナーと国家試験関係の書籍を紹介	めの広報活動も行っていきたい。
			するコーナーを開設している。	
			○看護棟の1階ラウンジの就職コーナーに、行政機	
			関関係の資料も展示するようにした。	
			MANUAL POLICE	

1			_	
			※図書館には、専門の司書を配置し、かつ夜間利用	※全ての学部が要求する専門誌等の情報提
			も可能にするなど学生・教職員に対して便宜を図	供サービスは、予算の関係上満足できる
			っている。また、県立図書館等の閲覧や学術専門	状況ではないが、限られた予算内におい
			誌などの情報収集も可能にしている。	て改善を図っていく必要がある。
(4) 教育研究等を	〇研究活動を促進させるための条件の整備		文学部	
支援する環境や条			○教員個人の最良で使うことのできる研究費が少	○外部資金獲得のための支援としては、これ
件を適切に整備			ないなど、研究活動を促進するための条件が十分	
し、教育研究活動			に整備されているとは言えない。大学内の研究費	
の促進を図ってい	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		の配分についても、議論が残るところである。(研	また、煩瑣なペーパーワーク(繁文縟礼
るか。	・研究室の整備、研究時間の確保、研究専念		究費の支給としては公正であるが、職階による区	とも言える)などにより、教育研究の時
977°	期間の保障等		別がある点など)	間が圧迫されているのは重大な問題と考
	・ティーチング・アシスタント(TA)、リサ		○研究室については問題が少ないが、研究時間に	える。
	・		ついては、持ちコマ数の増加(時には過剰=オ	これについては、web 会議や電子印鑑な
	一方・方クスタンド(RA)寺の教育研究 活動を支援する体制		ーバーワーク)や多数の会議などにより、時間	ど、新しい技術を積極的に導入することで
	石刻で又抜りる 中間		を奪われているのが実情である。	さ、新しい技術を積極的に等入することで 改善を図っていきたい。
			を集われているのが美術である。	○研究専念時間の確保については、サバテ
				ィカルの制度が 10 年来凍結されたまま
		s		になっており、復活が望まれる。
		A		OTA、RA については、文学部として長年の
				懸案であるが、今なお予算化できていな
		₿		ر،
		С		
			社会福祉学部	
			〇研究費は適切に支給されている。	○2021年度からのカリキュラム改訂によっ
			○関係各所からの事務・雑用等の処理に多くの時間を	て、社会福祉学部所属の全教員が平日に
			割かれる教員とそうでない教員との労働環境の差が	学内外問わず「研修日」を設定できるよ
			近年大きくなっており、研究時間・研究専念期間の	う整備する。事務・雑用等の処理を多く
			確保に関し不公平感が増している。	担う教員への研究時間・研究専念期間確
				保に向けた環境改善を図る。
				○事務・雑用等の処理により学内貢献した教
				員への人事評価の仕組みを改善する。それ
				に限らず大学運営・経営に貢献した者へ
				は、昇給・賞与上乗せ並びに昇格によりモ
				チベーションアップを図る体制を整える。
			I .	

		看護学部 ○学部としての教育研究活動への対応は、情報提供のみで、積極的な環境整備は行われていない。 ○外部資金獲得に関しては、教員は全員申請する基本的な考え方は示している。 ○研究費の活用に関する具体的ルールは作成されているため、円滑な運用が行われている。	〇文部科学省の科研費申請の前に、教員全員に対して、科研費取得を目指した研究計画書の書き方などの講習会を開催する。
		※「教員の教育研究の環境整備に係る方針」や 「大学個人研究費規程」を定めホームページに 公表し適切に研究活動が遂行されている。	※適切な研究費の支給や全教員へ研究室を 配置し研究環境は整えている。ただしTA、 RA などの体制は整いていないため、今後 教育環境を整備する上でその構築が必要 である。
守するために必要 な措置を講じ、適		文学部 ○規程は整備されている。 ○研究倫理教育は、定期的に実施されている。 ○学内に倫理審査委員会組織が整備されている。	○2019 年度からは、学生の卒業論文作成に 関しても倫理教育を強化するようにし、 シラバスにも明示してあるが、さらに積 極的な取り組みが必要と考える。
	S A B C	社会福祉学部	〇左に挙げた科目をはじめ、いろいろな機会を通して、学生に対する「研究倫理」 に関する指導を徹底する。
		看護学部	員の研究計画書の審査は、区別しておこ

				,
			※「本学の研究活動における不正行為への対応に関する規程・細則及び研究資料等の保存に関するガイドライン」を定めホームページに公表し研究倫理の遵守を講じている。	作成時等において担当教員より「研究倫
境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り	○点検・評価結果に基づく改善・向上		文学部 〇新校舎への移転直後なので、定期的な点検というところまでは至っていないが、空調やトイレ環境について、教員・学生からの要望を受けて適切に対処している。例としては、ウイルス対策のためハンドドライヤーを止めるなどしたことが挙げられる。	検評価は行っており、その結果をもとに 改善・向上に向けた取り組みが持続的に 行われていると言えるが、組織として完
組みを行っているか。		S A B C	社会福祉学部 ○授業評価アンケートを実施して報告書として発行した。また、ホームページにも掲載して広く周知を図った。 ○卒業生アンケートにおいても自由記述欄などで教育研究に関する要望を聞いて検証する体制を整えた。	れた授業環境に関わる事項を整理し、学 部長に報告して必要な改善対応をとる。
			看護学部 〇全学の FD 委員会にて、主に教育研究等に関する 敵的な研修会が実施されており、80%以上の教員 が参加している。	
			※教育研究等の環境については、定期的に点検・評価は実施していないが、図書館の環境整備をはじめ研究室の充実、研究倫理に関する審査機関の整備など十分にその環境維持に努めている。	度合いを測る物差しがないので、学生・

9 社会連携・社会貢献

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
究成果を適切に社			文学部	
			社会福祉学部 〇「中長期目標計画」及び教授会にて学長から地域 貢献に力を入れるよう経営方針として語られて おり、方針の明示は行われている。	
		S A B	看護学部 ○教員は、社会貢献の重要を認識し、研究の成果を 社会に還元すべく講演活動等に対し、積極的にか かわっている。 ○学部としても、リカレント委員会を中心に年1回 リカレント教育を実施し、看護研究の方法論など をテーマとした講演会を開催している。	連携・社会貢献に関する方針を適切に提示する。
		С	文学研究科 ○文学研究科では、社会連携・社会貢献に関して、 『大学院要覧』に、「地域の言語・文学・文化を対象にして、地域性や普遍性を追究する」とあるように、地域性を明らかにすることを目的の一つとしている。それをもって地域へ貢献しようとしている。	
			社会福祉学研究科 〇社会福祉学研究科では、その建学の精神である福音主義キリスト教に基づいて、教育実践を行っている。また、スクールモットーである「畏神愛人」に基づき、地域において活動している。これは、『大学院要覧 2019』の「弘前学院の沿革と使命」	

		l		
			に記してある。	
			※「本学の社会連携・社会貢献に関する方針」を定め、ホームページに公表し適切に社会貢献を行っている。	
(2) 社会連携・社会	○学外組織との適切な連携体制		文学部	
に基づき、社会連			○取り組みを実施している。たとえば、本学の特徴 の一つである「ヒロガク教養講話」では、文学部 のみがこれを単位化している。社会への還元も適 切なレベルにある。	
た、教育研究成果			社会福祉学部	
を適切に社会に還元しているか。		s A B c	○社会福祉実習では実習前後に現場の指導者を招いて実習指導連絡協議会を開催し、あわせて実習報告会にも招待し各施設機関と連携した学生教育を実践している。 ○学部教員より「大学コンソーシアム学都ひろさき」に委員を派遣し、大学間連携の役割を果たした。 ○専任教員が、地元自治体の審議会等での委員、各種研修会、講演会の講師等で出向き協力している。但し協力回数には多寡がある。 ○地域で行われる障害者が作った食品・農産品等の物販協力活動、鉄道沿線活性化イベントへの自主的な参加に努めた。 ○上記の地域貢献の活性化とその実現に向けて、教員の受け持ちコマ負担を週8コマ以下に減らして、地域に出ていけるような環境整備を進めた。	員の受け持ちコマ負担を減らして地域に 出ていける環境を関わず、本学の 、本学の 、本学の 、本学の 、本学の 、本学の 、本学の 、本学の
			看護学部	
			有護字部	会活動を紹介するなど、学生の多様な学 びを保障すると同時に、法人などとの連
			ループの見学を定期的に行っており、学生の学修	

			への効果が大きいと感じている。	が、各医療機関などで実践できるよう、 共同研究を模索する。
				〇両親学級など、地域の子育て支援に貢献
				できる企画を模索する。
			 文学研究科	
			〇昨年度より、地域社会への貢献を目的として、社	
			会福祉学研究科と連携して学際的な研究に取り 組み始めた。「デス・アゴラ」と称して、地域社会	
			における死の問題を考えようとするものである。	生间の教育研究調 登を凶る必安 がある。
			その記録の一部は、文化祭に参加して公表した。	
			また、『弘前学院大学大学院社会福祉学研究科	
			社会福祉学研究』第8号(2020年3月発行)、およびアメーバ・ブログに掲載し、成果を社会に還	
			元している。	
			11 A 1—11 24 rm da 71	
			社会福祉学研究科 ODeath Agora チームを結成し、文学研究科と社会	○「デス・アゴラ」については継続して研
			福祉学研究科の学生が一緒になって、津軽地方の	
			寺院、共同墓地、墓を訪問し社会民俗学的な視点	
			で研究活動を行った。	る。
			 ※学外組織との適切な連携体制を堅持するため、新	 ※外部組織は、現在「弘前市役所」、「弘前
			たに「社会連携推進会議」を立ち上げ取り組んで	
			いる。	携を図りながら地域貢献等に取り組んで いる。
(3) 社会連携・社会	○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・		 文学部	υ··ω ₀
貢献の適切性につ			〇定期的な点検は行っていない。	〇点検評価は行っているが、その結果をも
	〇点検・評価結果に基づく改善・向上	s		とに改善・向上に向けた取り組みが完全
検・評価を行っているか。また、そ		A		に行われているとまでは言えない
の結果をもとに改		₿	社会福祉学部	
善・向上に向けた		С	○教員ごとに社会連携・社会貢献の実績について社	
取り組みを行っているか。			会福祉教育研究所所報(2019 年度版)に掲載し公開した。これにより、点検・検証の活動の第一歩	
ເາລກະ 			開した。これにより、点検・検証の活動の第一歩 とした。	える。 ○社会連携・社会貢献実績が少ない教員に
L				

		ついては学部長から学部の地域貢献事業 に積極的に関わるよう協力依頼して繋げ る。
	看護学部 ○社会連携・社会貢献についての大学の考え方と対応方法について、教員に対し情報を提供している。	
	文学研究科 ○文学研究科では、こうした社会連携・社会貢献の 適切性に関しては、昨年度と同様に、学務委員会 において『大学院要覧』を見直す中で点検してい る。	たい。
	社会福祉学研究科	
	※社会連携・社会貢献の適切性については、弘前市 役所や弘前商工会議所と連携会議を持ち、評価を していただいている。	

10 大学運営·財務

(1)大学運営

(1) 人子理呂				
点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
(1) 大学の理念・	〇大学の理念・目的、大学の将来を見据え		〇大学の理念・目的等については、「弘前学院教育	〇現在、第2期中長期目標実施計画(2020
目的、大学の将来	た中・長期の計画等を実現するための大	s	方針」並びに「弘前学院大学教育理念」を制定し、	年度~2022年度)の策定に取り組んで
を見据えた中・長	学運営に関する方針の明示	(A)	ホームページに明確に公表している。	いる。
期の計画等を実現	〇大学構成員に対する大学運営に関する		〇中長期目標企画会議において、「第1期3年次中	
するために必要な	方針の周知	В	期目標実施計画 (2017 年度~2019 年度)」を策定	
大学運営に関する		С	し、優先取り組み事項と数値目標達成手順・評価	
大学としての方針			反省点などを定め、PDCA サイクルを行い大学の	

を明示しているか。		将来を見据えた大学運営について取り組んでい
		る。
(2) 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。 (2) 方針に基づらきの選任方法と権限の明示・学長による意思決定及びそれに基づく執行等の整備・教授会の役割の明確化・学長による意思決定と教授会の役割との関係の明確化・教学組織(大学)と法人組織(理事会等)の権限と責任の明確化・学生、教職員からの意見への対応の適切な危機管理対策の実施		る。 ○「弘前学院大学組織運営規程」により学長は、理事会の同意を得て理事長が任命し、副学長は学長の要請により本学教授から理事長が任命し、学部長、研究科長、学科長、宗教主任は学長が任命している。 ○2014 (平成 26) 年の学校教育法や同施行規則の改正を受け、学長の権限、教授会の位置づけ、意思決定手続き等に関して明確を図っている。 ○管理運営については、全学部的な審議機関である大学協議会や学長の諮問機関であるを長運営会議、各学部の審議機関である教授会、各委員会等での意見や要望を参考にしながら最終的には学長が主体的に、かつ明確な意思決定を行い、大学運営を行っている(弘前学院大学管理運営組織図)。 ○本学の特徴の一つに、法人理事長が大学協議会、学長運営会議、教授会、大学院研究科委員会等に出席し大学の現状や課題、要望等を把握しているため、法人理事・評議員等に大学の現状を伝えることが出来、そのため大学との意思疎通は十分と言える。 ○学生、教職員からの要望等は、学長が常に学長室の戸をオープンにし、親身になって対応している。 ○危機管理については、理事長・学長・副学長・各研究科長・各学部長・宗教主任・事務長からなる
		「危機管理委員会」を設置し適切に対応している。(危機対応マニュアルを作成し活用)
(3) 予算編成及び 〇予算執行プロセスの明確化及び透明性	+	る。(危機対応マーユアルをTF成し活用)
「「「「「「「」」」」 「「」」 「「」」 「「」」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」	s	Oス字の予算は、法人本部から市達される能力経費 O予算編成においては、子生の網入並かで と特別補正費からなる。配分経費は、学生数及び のウエートを大きく占めている。このた
		名詞
みの設定		熱水費、維持修繕費、印刷製本費、保守清掃費、れに対しては、主に「新戦略会議」を中
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	В	図書費等)からなる。特別補正費は単年度に特別 心に、「中長期目標企画会議」、「経営改善
		に補正される経費(教職員健康診断費、入試広報 実行会議」等において改善に努め 2020 年

			センター経費、大学基準協会経費、施設特別経費 度の入学者定員に対する入学者数比率は
			等)である。 95.9%まで改善し、入学者数については
			○上記の令達された経費をもとに、各学部等からの 徐々にではあるが改善傾向にある。今後、
			要望を参考に予算を編成し、「予算委員会」に原 さらに上記の会議等を含めて改善を加
			案を提示し審議して決定している。予算は、学校 え、入学者数増を目指す。
			法人会計基準及び経理規則に則り施行し、会計デ〇予算執行については、各月において各学
			ータは法人本部に集約されるシステムになって 部・委員会等の執行度数を表にまとめ、
			いる。 現況を把握し、健全な予算執行に努めて
			〇当初予算外の予算支出の場合は、法人本部と相談 いるが、年度末に向けて予算執行の頻度
			し対応している。なお、予算執行については、限が高まるため、年間を見通した予算執行
			られた予算内での執行のため適切か否かは現在が各学部・委員会等に必要である。
			検証するシステムがない。法人本部と協議する課
			題である。
(4) 法人及び大学	〇大学運営に関わる適切な組織の構成と人		〇本学の事務組織は総務課・学務課・学生課・就職 〇事務組織に関しては、適材適所を念頭に
の運営に関する業	事配置		課・入試広報センター・電子機器管理センター・ 入れ配置しているが、プロパー養成など
務、教育研究活動	・職員の採用及び昇格に関する諸規程の整		宗教部から構成され、計 25 名(教員兼任 1 名含) のため配置転換が厳しい現状もある。ま
の支援、その他大	備とその適切な運用状況		む)が所属している。事務長及び各課長、センタ た、事務職員の専門的知識を深めるため
学運営に必要な事	・業務の多様化、専門化に対応する職員体		一長は管理職として課員を指導し、各学部・学科・ には、多くの職務を経験することが大事
務組織を設けてい	制の整備		委員会の業務を適切に分担し本学の教育研究活しである。このため数年ごとの配置転換も
るか。また、その	・教学運営その他の大学運営における教員		動が円滑に行われるよう業務遂行にあたってい 必要であるが、現状としては大きな改善
事務組織は適切に	と職員の連携関係(教職協同)	s	る。 に至っていないが、現状打破が必要であ
機能しているか。	・人事考課に基づく、職員の適正な業務評価	_	○事務長・各課長・センター長は学部教授会等にオーる。
	と処遇改善		ブザーバーとして出席するなどし、教員と協働し〇年々業務の多様化に伴い、職員の多忙化
		В	て教学運営・大学運営に参画している。 が見られるが、健康維持管理のため積極
		С	〇現在、職員の年齢構成は2極化が進み、中堅層が 的に年次休暇等の取得を促進している。
			少ないため事務運営に多少危惧している面があり「働き方改革」に伴う、年5日間の休暇
			るが、若手職員の育成に取り組んでいる。 については、適切に執行された。
			○現在、本学では教員を含めて人事考課に基づく適○職員の採用・昇給に関しては、法人本部
			切な業務評価のシステムがない。今後は、諸問題が担当している。事務部としては、職員
			を一つ一つ解決し、適切な処遇改善に努めるため の業績を適切に法人本部に上申し、その
			のシステムの構築が必要である。 評価をポスト等に反映することをお願い
			している。
(5) 大学運営を適	○大学運営に必要なスタッフ・ディベロップ	S	
切かつ効果的に行		_	〇副学長を委員長に各学部・大学院研究科のFD 委 〇これまで、各学部・学科・研究科単位で
うために、事務職	2 1 (00) ON THE PROPERTY OF THE	\otimes	員長、各学部の学生主任、学務課長をメンバー FD・SD を実施していた。そのため、大学
員及び教員の意欲		В	として「大学 FD 委員会」がある。この委員会が 全体として何をテーマに実施しているの
スペリか見い心い		С	主催し大学全教職員が参加の SD・FD を実施し、 か知る由もなかったが、これを解消する

及び資質の向上を			大学教育改革に取り組んでいる。	ため「大学 FD 委員会」を設置した。
図るための方策を			〇事務部では、毎年テーマを設定し SD(毎週月曜	今年度は、大学共通の FD・SD を本学講師
講じているか。			日朝会にて3分間スピーチ)を実施している。	により計1回、高大連携による FD・SD 研
			令和元年度は「各課等の現状と行動指針につい	修を同様に計1回実施した。この研修会
			て」を設定。また、「大学 FD 委員会」が主催す	には、教職員がほぼ 100%出席し、大学教
			る研修会に必ず出席し研鑽を積んでいる。	育の改善・方向性を共通理解し研鑽を積
			〇若手職員の研修として、日本私立大学協会東北	んでいる。なお、各学部・学科・研究科で
			支部事務研修会に3名参加させ、他大学と課題	は随時 FD 研修会を実施し、資質向上に努
			を共有し問題解決能力を図っている。	めている。
(6) 大学運営の適	〇適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・		〇「新戦略会議」、「中長期目標企画会議」、「経営改	〇「経営改善計画(平成 30 年度~34 年度
切性について定期	評価		善実行会議」等において、大学運営の適切性につ	(5ヵ年)」、「中長期目標実施計画(2017
的に点検・評価を(〇監査プロセスの適切性	_	いては検証評価し大学の健全運営についての改	年度~2019年度)」における、目標設定を
_ · ·	〇点検・評価結果に基づく改善・向上	S	善・向上を図っている。また、「経営改善計画(平	確立するため、全教職員が努力し取り組
た、その結果をも		\otimes	成 30 年度~34 年度 (5 ヵ年)」、「中長期目標実施	んでいる。年度毎の実施状況・目標達成
とに改善・向上に		В	計画 (2017 年度~2019 年度)」を策定し点検評価	度合については、教職員共通理解が図ら
向けた取り組みを		С	の根拠資料としている。	れ、明確になっている。
行っているか。			○意思決定プロセスや権限・責任並びに法人本部と	また、第2期「中長期目標実施計画(2020
			大学、教学組織と事務部の関係等については明確	年度~2022年度)」を策定中である。
			である。	

(2)財務

点検・評価項目	評価の視点	評価	取組・達成状況	課題・改善方策
定して遂行するため、中・長期の財			○教学:「弘前学院大学中長期目標実施計画」(第2期令和2年度~令和4年度)、財政:「学校法人弘前学院経営改善計画」(平成30年度~令和4年度)を策定済みである。 ○「弘前学院経営改善計画」に基づき、毎年度、法人全体の事業活動収支差額比率2%~5%、経常収支差額比率3%以上を目標としている。令和元年度は、平成30年度実施の弘前学院大学校舎1号館耐震改築工事に伴う旧1号館解体工事等の影響により、事業活動収支差額比率は−15.7%、経常収支差額比率は−11.7%となった。○法人の主要財務比率等は理事会・評議員会において提示し、検討を加えている。	学院経営改善実行会議」により、経営改善全体を牽引していく。 〇過年度より実施してきた中学高等学校及び大学における一連の耐震対策事業計画の完了したことにより、多額の特別経費の支出がなくなるため、今後は一層の経営努力により、事業活動収支差額比率、経常収支差額比率の回復を目指す。

(2) 研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか。 (2) 研究活動を安定では、	S A	 ○財務基盤、配分予算確立のため、人件費及び経費の削減、学生生徒募集活動の強化を実施した。 ○文部科学省科学研究費補助金の採択件数は新規2名・継続7名、採択金額は前年度比3,250千円増の12,220千円(直接経費9,400千円・間接経費2,820千円)となった。 ○競争的補助金獲得のための「補助金対策委員会」により補助金獲得のための「補助金対策委員会」により補助金獲得の取り組みを行っているが、獲得に至っていない。今後は、大学の内部質保証を
		一 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一

評価基準

S:基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが卓越した水準にある。

A:基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的を実現する取り組みが概ね適切である。

B:基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的の実現に向けてさらなる努力が求められる。

C:基準に照らして重度な問題があり、理念・目的の実現に向けて抜本的な改善が求められる。。